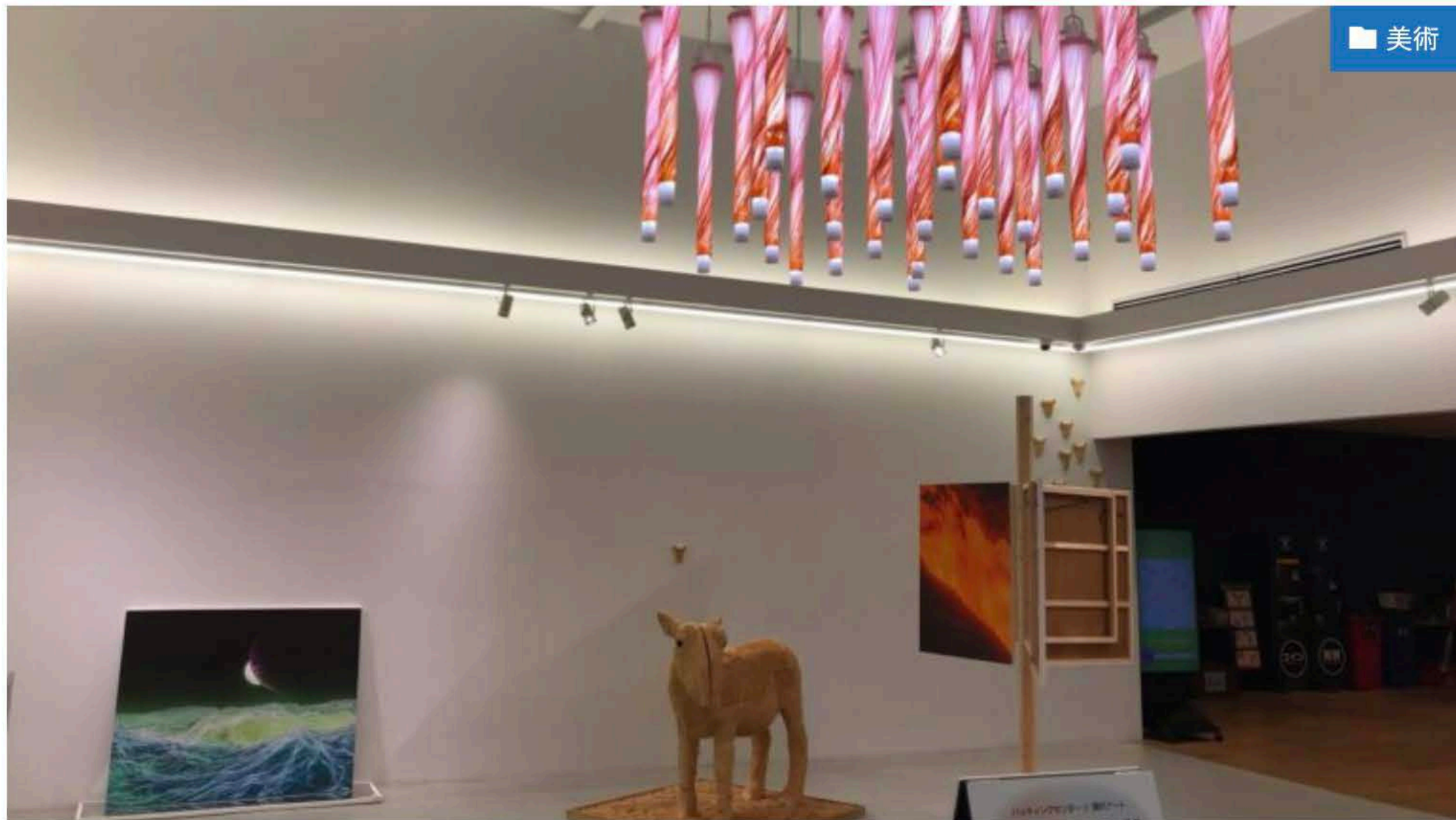


木村充伯 Luc Schol (ルック・ショル) 安宮理子 バッティングららら緑店(名古屋)で現代美術展 7月30日-10月10日

🕒 2022年9月19日 🕒 2022年9月19日 📁 美術 📍 ケンジタキギャラリー



バッティングららら緑店（名古屋） 2022年7月30日～10月10日

目次 閉じる

1 バッティングセンターにホワイトキューブの展示空間 現代美術のグループ展を開催

2 GROWING SPACE

検索

キーワード

キーワードを入力

カテゴリー

カテゴリーを選択

タグ

- ☐ 2020年 ☐ 名古屋市博物館
- ☐ 国際芸術祭あいち ☐ 国立工芸館
- ☐ 四日市市文化会館 ☐ 和歌山県立近代美術館
- ☐ 名演小劇場 ☐ 名古屋造形大
- ☐ 名古屋芸術大 ☐ 名古屋画廊
- ☐ 名古屋市美術館 ☐ 名古屋市民ギャラリー
- ☐ 名古屋学芸大 ☐ 大須演芸場
- ☐ 名古屋シネマテーク ☐ 古川美術館
- ☐ 刈谷市美術館 ☐ 伏見ミリオン座
- ☐ 京都国立近代美術館 ☐ 三重県立美術館
- ☐ 三重県文化会館 ☐ 一宮市三岸節子記念美術館
- ☐ ロームシアター京都
- ☐ ヤマザキ マザック美術館
- ☐ 多治見市陶磁器意匠研究所
- ☐ 山形国際ドキュメンタリー映画祭
- ☐ ふじのくにせかい演劇祭
- ☐ 瀬戸内国際芸術祭 ☐ 長久手市文化の家
- ☐ 金沢21世紀美術館 ☐ 豊田市美術館

2.1 木村充伯

2.2 ルック・ショル

2.3 安宮理子

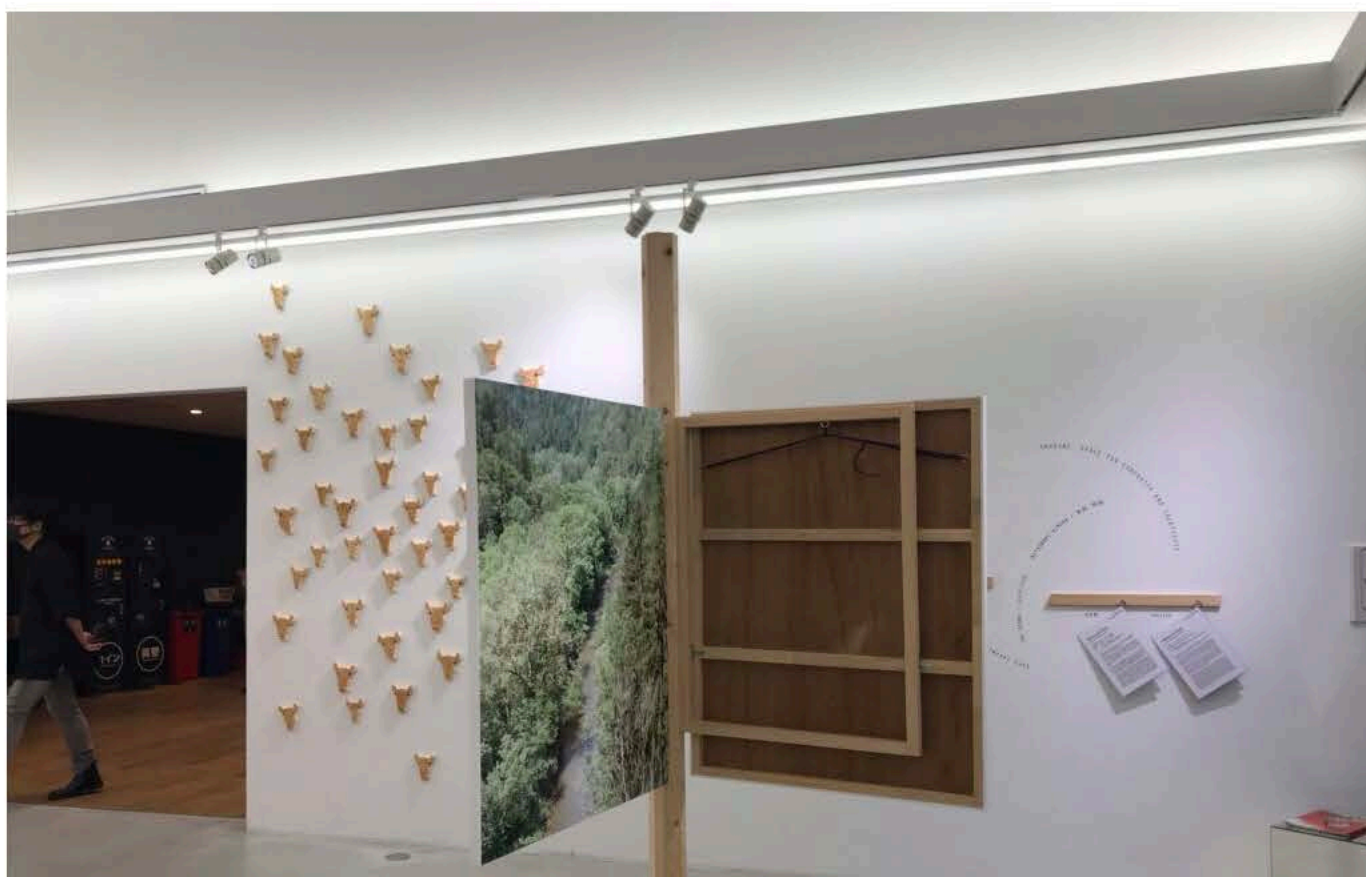
バッティングセンターにホワイトキューブの展示空間 現代美術のグループ展を開催

名古屋のバッティングららら緑店（緑区鳴海町杜若92）で2022年7月30日～10月10日、現代美術のグループ展「GROWING SPACE」が開催されている。[国際芸術祭「あいち2022」](#)のパートナーシップ事業である。

出展作家は、[木村充伯](#)さん、[ルック・ショル](#)さん、[安宮理子](#)さんの3人。バッティングセンター入口ロビーに設けられたギャラリーで、営業時間中は気軽に鑑賞できる。本格的な現代アートをバッティングセンターで展示するという注目の試みである。

スポーツ・遊興施設と現代アートという意外な組み合わせによって、サイトとスペースの新たな展開、アートとの出会いの機会の創出を目指している。

バッティングららら緑店など、愛知県内でバッティングセンターなどの事業を展開する「[マルエ](#)」（愛知県春日井市）と、2019年からアートプロデュースを手掛ける「[SYNONYM\(シノニム\)](#)」（名古屋市中村区）の共同企画である。



- ☐ 豊田市民芸館 ☐ 豊橋市美術博物館
- ☐ 美濃加茂市民ミュージアム ☐ 織部亭
- ☐ 碧南市藤井達吉現代美術館 ☐ 目黒陶芸館
- ☐ 白土舎 ☐ 滋賀県立美術館
- ☐ 岐阜県現代陶芸美術館 ☐ 清須市はるひ美術館
- ☐ 桜ヶ丘ミュージアム ☐ 新世紀工芸館
- ☐ 文化フォーラム春日井
- ☐ 愛知芸術文化センター ☐ 愛知県陶磁美術館
- ☐ 愛知県芸術劇場 ☐ 愛知県美術館
- ☐ 愛知県立芸大 ☐ 岐阜県美術館 ☐ プラット
- ☐ フェスティバル/トーキョー ☐ 2021年
- ☐ IAMAS ☐ NAO MASAKI ☐ Nagoya
- ☐ N-MARK ☐ MAT,Nagoya ☐ MAT
- ☐ masayoshi suzuki gallery ☐ Lights Gallery
- ☐ LAD GALLERY ☐ L gallery
- ☐ KYOTO EXPERIMENT ☐ Gallery 芽楽
- ☐ ON READING ☐ gallery N ☐ GALLERY IDF
- ☐ Gallery HAM ☐ GALLERY CAPTION
- ☐ GALERIE hu: ☐ FLOW ☐ Barrack
- ☐ AIN SOPH DISPATCH ☐ A・C・S ☐ 2022年
- ☐ NODA CONTEMPORARY ☐ SA・KURA
- ☐ ハートフィールドギャラリー
- ☐ ギャラリーヴァルール ☐ なうふ現代
- ☐ ジルダールギャラリー ☐ シネマスコーレ
- ☐ シアターカフェ ☐ ケンジタキギャラリー
- ☐ ギャリ想 ☐ ギャラリー数寄
- ☐ ギャラリーラウラ ☐ ギャラリーサンセリテ
- ☐ ギャラリーヴォイス
- ☐ ギャラリーアートグラフ ☐ See Saw gallery
- ☐ ギャラリー・ノイボー
- ☐ ガレリア・フィナルテ ☐ ガルリラペ
- ☐ おおぶ文化交流の杜 allobu
- ☐ ウエストベスギャラリーコヅカ
- ☐ あいちトリエンナーレ ☐ アートラボあいち
- ☐ YEBISU ART LABO ☐ STANDING PINE
- ☐ SPAC ☐ SHUMOKU GALLERY
- ☐ 静岡県立美術館

2021年3月、バッティングらら緑店のリニューアルオープンに合わせ、ロビーにホワイトキューブの展示空間「GROWING SPACE」を開設したのが契機となった。

そのとき、ロビーに、安宮理子さんのシャンデリア（照明器具）の作品「神経-筋機能」を設置。今回は、その作品を起点にキュレーションされた初の特別展示である。8月24日には、木村さんによるワークショップも開催された。

今後は、「成長するスペース」の名称通り、展示作品を入れ替えつつ、さまざまなプロジェクトを展開する。

GROWING SPACE

展覧会のテーマは、コロナ後を見据えた自然と動物、人間の共存とエスケープズム（現実逃避）である。

展示は、現代の世界が直面するパンデミック、ディストピアを映し出すとともに、自然への回帰や動物との共存、自由な空想、新たな遭遇など現実からの逃避を積極的に捉え返している。

木村充伯



アーカイブ

月を選択

記事掲載カレンダー

2022年9月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		
« 8月						

カテゴリー

カテゴリーを選択

サイト管理者



井上 昇治

1964年、名古屋市生まれ。1989年、中日新聞社に入社し、新聞記者として、文化部、生活部などで美術、演劇、映画、食品、住宅、年金やマネーなどを担当。現在は、企業や大学向けの文章講座の講師、教材開発などを担当している。また、2002年10月、名古屋で芸術批評誌REARを有志で立ち上げ、2011年頃まで編集。2019年6月には、WEBサイトOutermostNAGOYAをスタートした。アート情報発信

木村充伯さんは1983年、静岡県生まれ。2007年、名古屋造形芸術大学大学院修了。現在は、静岡県を制作拠点としている。[名古屋市美術館の「現代美術のポジション 2021-2022」](#)に出品した。

動物を主なモチーフに、クスノキ、ヒノキや油絵具を使った彫刻をはじめ、平面、インスタレーションを制作している。木の毛羽立ち、絵具の物質感など素材の特徴とモチーフとの関係、動物と人間、環境のつながり、境界がテーマとなっている。

近年は、コロナの感染拡大をきっかけに「呼吸」という切り口で、人間と動物に意識を向けている。



今回出品された2作品はいずれも、「Breathe」（息）というタイトルがついている。

モチーフは、中央アジアに生息する草食動物サイガ。厳しい環境の中で生きるため、息を吸い込む際、外気の温度を大きな鼻で調整する生態に着目し、呼吸を通じて、パンデミック下における人間の生存についても思いを巡らせる。

[2020年のケンジタキギャラリー（名古屋）での個展レビュー](#)、「[愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展](#)」も参照。

ートライティング関係者や、ビジネスパーソン、学生向けに、文章力向上のための教材、メディア開発に取り組んでいる。

その他

Checkout

Order Confirmation

Order Failed

アーティスト・リンク！

おすすめの美術館、博物館、ギャラリー

お問い合わせ

これだけは見たい！全国の展覧会・・・

サイトの紹介

サイトマップ

プライバシー・ポリシー

執筆者一覧

週間人気記事ランキング



🕒 2021年11月3日 🔄 2022年9月9日

2022-2023年 主な展覧会 愛知（名古屋）、三重、岐阜、静岡、長野、石川の美術館・博物館

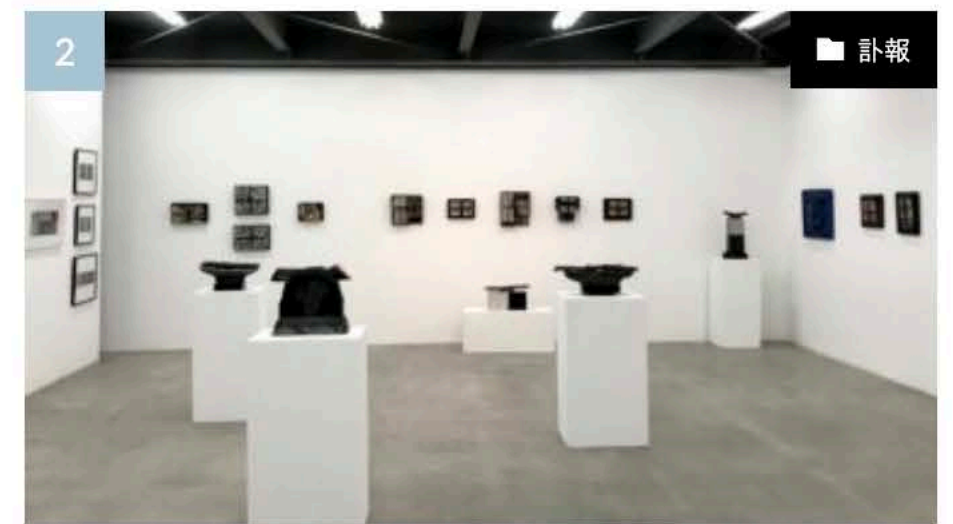
ルック・ショル



ルック・ショルさんは1991年オランダ生まれ。オランダのハーグ王立美術学院、ウィレム国王学院で学び、英国のロイヤル・カレッジ・オブ・アートで修士号を取得した。

ロンドンとロッテルダムを拠点に制作。今回が日本で初めての作品発表となる。

写真イメージとコンピューターによる3DCGを使い、フィジカル、あるいはデジタルな逃避的世界を探索しているアーティストである。



🕒 2022年3月11日 🔄 2022年3月11日

彫刻家の国島征二さんが死去 84歳



🕒 2022年8月15日 🔄 2022年8月21日

瀬戸現代美術展2022 愛知県瀬戸市の菱野団地で
9月17日-10月23日



🕒 2022年8月30日 🔄 2022年8月30日

美術家の篠田太郎さんが死去 57歳



🕒 2022年2月22日 🔄 2022年2月22日

今回は、旅の風景イメージをツリー型に展示。鑑賞者は、その周りを回遊しながら鑑賞する。同時に2つの画像を見ることはできず、ツリーの周囲を歩くことで、ゲームのように謎めいた風景イメージに遭遇する。

風景は、自然の中で撮影されたものとコンピューターで丁寧に加工された想像上のものが混在している。写真には、ドイツのブラックフォレスト、ヨルダンの死海や砂漠、月のイメージが使われている。

エスケーピズムと崇高を感じさせる多層的なイメージは、美しさと好奇心、冒険心、希望と安寧、不安など多様な感情をかきたてる。炎の動きを捉えた映像作品も出品している。

安宮理子



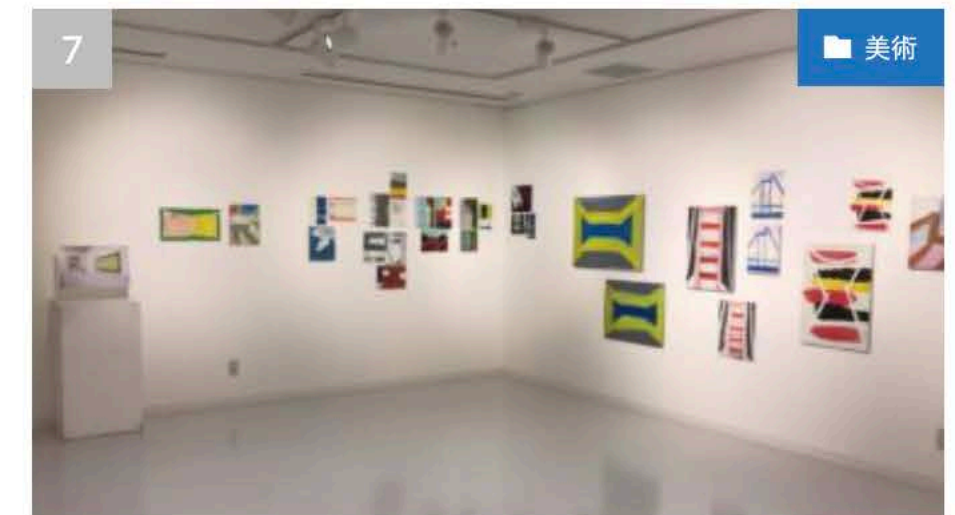
安宮理子さんは1993年、大阪府生まれ。2015年に京都精華大学を卒業後、英国ロンドンのセントラル・セント・マーチンズでアート・サイエンスを専攻し、芸術学修士を取得した。現在の制作拠点は東京である。

特別展 ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展 2022年7月16日-9月25日/大阪市立美術館



🕒 2022年9月7日 🔄 2022年9月16日

ゲルハルト・リヒター 豊田市美術館（愛知県）
で10月15日-2023年1月29日 9月17日からオンラインでの前売り開始



🕒 2022年9月12日 🔄 2022年9月12日

登山博文 Drawing/Tableau 2008-2010 Art Space
NAF（河合塾美術研究所）で9月5-18日



🕒 2022年6月24日 🔄 2022年9月12日

BIWAKO ビエンナーレ2022 滋賀県近江八幡市、
彦根市で10月8日-11月27日に開催



人間の体に関連した主題をテキスタイルやミクストメディア、インスタレーションなど多様なメディアによって作品化するアーティストである。

知覚の可能性を広げ、マルチメディアによって鑑賞者とのコミュニケーションを図る狙いもある。

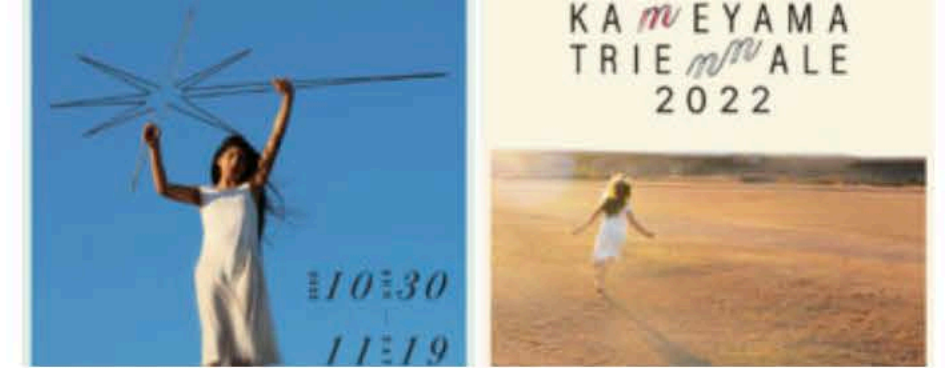


今回展示された2作品は、いずれもインタラクティブな作品である。

ロビーの天井から吊るされた「神経-筋機能」は、人体骨格を想起させるシャンデリアで、ラテックスを細かく割いて筋繊維のように制作。電気信号が神経から筋肉へと伝達される様子を光で再現し、鑑賞者の場所によって反応する。

もう1点は、筋肉の伸縮によって血液を全身に循環させる心臓に着目。心拍センサーによって、鑑賞者の心臓の動きを視覚化した作品である。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。（井上昇治）



🕒 2022年6月25日 🔄 2022年6月24日

三重県亀山市で「亀山トリエンナーレ2022」 10月30日-11月19日に開催



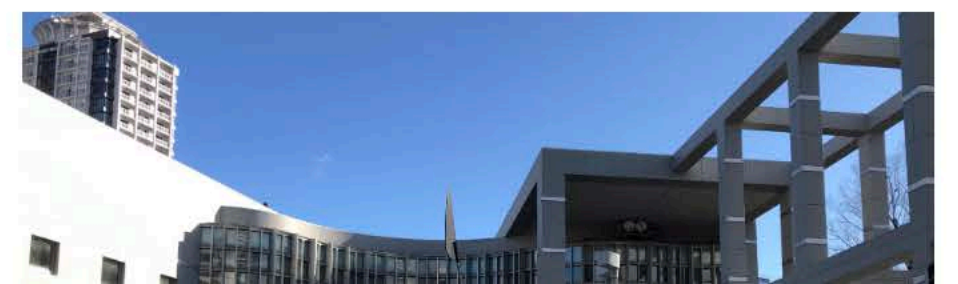
🕒 2022年6月16日 🔄 2022年6月16日

模図かずお大美術展 2022年9月17日-11月20日
大阪・あべのハルカス美術館で開催

あいちトリエンナーレ2019特集



東海地方（愛知〔名古屋〕、岐阜、三重）の美術館、ギャラリー展覧会情報（更新中、毎週木曜日配信）



執筆者



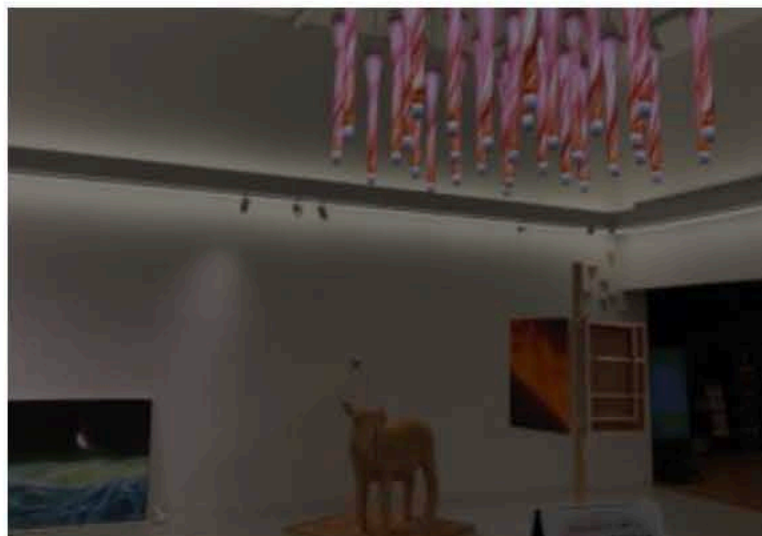
井上 昇治

1964年、名古屋市生まれ。1989年、中日新聞社に入社し、新聞記者として、文化部、生活部などで美術、演劇、映画、食品、住宅、年金やマネーなどを担当。現在は、企業や大学向けの文章講座の講師、教材開発などを担当している。また、2002年10月、名古屋で芸術批評誌REARを有志で立ち上げ、2011年頃まで編集。2019年6月には、WEBサイトOutermostNAGOYAをスタートした。アート情報発信のオウンドメディアの可能性を追究するとともに、アトライティング関係者や、ビジネスパーソン、学生向けに、文章力向上のための教材、メディア開発に取り組んでいる。

投稿一覧へ



シアター・ナウ！ 映画と舞台



最新情報をチェックしよう！

 フォローする